

質疑概要

通し番号	区分(注)	質問者	項目	質問・意見の内容	回答
No. 1	事前	後藤委員	水質汚濁	資料1、P10。 「①水質汚濁」は環境アセスメントに選定しないとなっているが、清掃工場建設予定地に面している旧江戸川の建設予定地上流・下流地点において河川の水質汚濁アセスメントを行うべきであると思うが、「水質汚濁」を選定しない理由を説明してほしい。 (提案理由：河川の水質は、隣接施設における土壌汚染・地盤・水循環や大気汚染、さらには異常降雨などに対しての予期せぬ事態が影響する。大小を問わず過去の環境汚染事故事例を見ると水質汚濁まで広げたアセスメントを行った方が良く考える。)	「工事の施行中」及び「工事の完了後」の2つの観点から水質汚濁への影響の有無を検討し、影響はないと考えるため、予測・評価の項目として選定しない。 なお、「工事の施行中」及び「工事の完了後」に敷地内で発生する排水は下水排除基準に適合するように処理したのち、公共下水道へ排出する。
No. 2	事前	後藤委員	土壌汚染	資料1、P33。 調査結果の単位は「mg/L」なのか、確認したい。	ご推察のとおり。 単位の記載漏れであるため、住民説明会では、単位を追記した資料を用いて説明する。
No. 3	当日	石原委員	大気質	資料1、P16。 大気質について、予測値が環境基準より低いのは理解したが、排ガス処理設備の構成自体は現工場と変わらないように見受けられる。 具体的にどこが改良されたことで排ガス処理性能が向上しているのか。	既存工場は平成9年1月にしゅん工した。当時と比較すると現在のプラント設備は技術革新が進んでおり、既存工場の設計時にはなかった新しい技術の導入などにより、設備構成は変わらず、排ガス処理性能は向上している。
No. 4	当日	石原委員	土壌汚染	資料1、P32。 土壌について、不溶化処理の後、封じ込め槽に入れており、六価クロムやカドミウムなど環境基準の範囲内であり問題は無いと思う。新工場は六価クロムやカドミウムなどは発生しないのか。	建替え後の工場の操業により、六価クロム等の土壌汚染が発生することはないと考える。 現在建物がある範囲を含めて、建替工事に着手する際には改めて土壌調査を行う。汚染が確認された場合には、関係法令に基づき適切に対策を講じる。
No. 5	当日	石原委員	緑化	資料1、P45。 緑化について、図では茶色点線が現工場、黒の実線が新工場を示しているものと思われるが、建築面積を増やすということは空地が減るということであり、普通に考えると緑地面積は減少するように思うが、草地の部分に植樹するなど新工場ではどのような対応を考えているのか。	建築面積は増加するが、地下を活用することで建物が極力広がらない計画としている。 また、新工場では新たに屋上緑化、壁面緑化を図ることで、条例等に基づく必要な緑地等を確保する計画としている。
No. 6	当日	石原委員	災害時の予測	新工場における異常操業時（異物焼却時）や災害等発生時などにおける大気・悪臭・水質汚濁などの対応について、評価書案では記述しないのか。	評価書案には、敷地地盤の嵩上げなど最低限の対策しか記載していないが、計画の中では災害時のプラント設備の安全な停止、施設の強靱化、地域防災への貢献などについても検討している。 東京都環境影響評価手続では、予測・評価の項目や予測方法などについて詳細に定められているが、不可抗力的な災害に対する影響は対象となっていない。そのため、評価書案には記載していない。

通し 番号	区分 (注)	質問者	項目	質問・意見の内容	回答
No. 7	当日	小倉 委員	廃熱 利用	<p>評価書案の概要（冊子）P62。 「ごみ処理により発生する熱を廃熱ボイラで回収し・・・」の記述があるが、P9の全体処理フロー図にはそれを示す絵が入っていない。 実際に、廃熱利用をするのか、しないのか。実施するのであれば、相当量のCO₂削減効果があるはずなので、算入したほうが良いと考える。 また 壁面・屋上緑化を実施することだが、太陽光発電も設置することなので、面積を有効に活用し両立していただき、これによるCO₂削減効果についても算入したほうが良いと考える。</p>	<p>評価書案の概要のフロー図には、余熱利用設備などの細かい設備は記載していないが、廃熱を利用し、近隣の公共施設へ熱供給する計画としている。 なお、評価書案の概要には詳細な予測値は記載していないが、評価書案の本編、資料編には記載している。 また、太陽光発電については、屋上緑化を図ったうえで、可能な範囲で太陽光パネルを設置する。こちらも評価書案の本編、資料編には詳細な予測値を記載している。</p>
No. 8	事後	青山 委員	騒音・ 振動	<p>資料1、P27。 1日何台くらいの車両が往来するのか。 騒音、振動は台数によっては、上回ることもあるのではないかと。</p>	<p>工事用車両は最大で一日当たり片道164台走行すると想定している。工事用車両が最大となる条件で、騒音・振動の予測・評価を行っている。</p>
No. 9	事後	青山 委員	騒音・ 振動 (風環境)	<p>資料1、P29。 工事の完了後も、風の向きによっては、市川の方にも影響があるのではないかと。</p>	<p>建替え後の施設から発生する騒音・振動については、予測結果は影響が最大となる敷地境界においても規制基準を下回ることから、市川市側への影響は小さいと考える。 また、建替え後の建物や煙突の高さ、形状等は既存とほとんど変わらないことから、風環境への影響もないと考える。</p>

注：「事前」・・・第1回環境審議会の開催前、7月27日までに頂いた質問・意見

「当日」・・・第1回環境審議会の審議において頂いた質問・意見

「事後」・・・第1回環境審議会の開催後、8月7日までに頂いた質問・意見

④ 土壌汚染

調査結果 (単位:mg/L)

【地下水質調査】

	地点①	地点③	環境基準
砒素	0.012	0.017	0.01以下
ふっ素	0.82	0.25	0.8以下
ほか10項目は基準以下			



封じ込め槽(平成6年)
 薬剤等による不溶化処理後、
 敷地内に封じ込めた

汚 染 物 質	カドミウム
	六価クロム
	鉛
	亜鉛

地下水質調査では全て不検出

33

⑤ 地 盤

34